

研究拠点形成事業
平成26年度 実施報告書
A. 先端拠点形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	東京大学東洋文化研究所
アメリカ拠点機関：	プリンストン大学
フランス拠点機関：	社会科学高等研究院
ドイツ拠点機関：	ベルリン・フンボルト大学

2. 研究交流課題名

(和文)： 新しい世界史/グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築
(交流分野：歴史学)

(英文)： Global History Collaborative
(交流分野：)

研究交流課題に係るホームページ：<http://coretocore.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

3. 採用期間

平成26年4月1日～平成31年3月31日
(1年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：東京大学東洋文化研究所

実施組織代表者（所属部局・職・氏名）：東洋文化研究所・所長・高見澤磨

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：東洋文化研究所・教授・羽田正

協力機関：

事務組織：東京大学東洋文化研究所事務部

相手国側実施組織（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

(1) 国名：アメリカ合衆国

拠点機関：(英文) Princeton University

(和文) プリンストン大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Department of History, Professor,
Jeremy ADELMAN

協力機関：（英文）

（和文）

経費負担区分（A型）：パターン1

（2）国名：フランス共和国

拠点機関：（英文） Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales

（和文） 社会科学高等研究院

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Research Centre for History, Directeur
d'Etudes, Alessandro STANZIANI

協力機関：（英文）

（和文）

経費負担区分（A型）：パターン1

（3）国名：ドイツ連邦共和国

拠点機関：（英文） Berlin Humboldt University

（和文） ベルリン・フンボルト大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Institute of Asian and African Studies,
Professor, Andreas ECKERT

経費負担区分（A型）：パターン1

協力機関：（英文） Berlin Free University

（和文） ベルリン自由大学

経費負担区分（A型）：パターン1

5. 研究交流目標

5-1. 全期間を通じた研究交流目標

1. 新しい世界史理解と叙述の探求と確立：従来、世界各地における世界史の見方は、ヨーロッパ中心史観を下敷きとするという点では共通点を持ちながらも、国や地域によって多様だった。この多様な世界史の見方を拠点間で相互に参照・批判するとともに、現代世界において必要な地球への帰属意識（地球市民意識）を共有できる新しい世界史の理解と叙述の方法を、拠点間の議論を通じて探求し確立する。

2. ミクロな歴史研究との交流：新しい世界史研究の成果を、一国史や地域史などミクロ・レベルの歴史の研究者に投げかけて当該研究領域における既存の知の再検討を促す。また、その再検討結果を新しい世界史の解釈に活用する。この相互往復運動の繰り返しによって、歴史研究全体の活性化を図る。

3. 上記2つの大目標を達成するために、4研究機関が緊密に連携し、新しい世界史研究と教育のためのネットワーク型拠点を構築する。このネットワークによって実現を図る主な事業は次のとおりである。

①研究者の交流：毎年一定数の研究者、PDを他の3拠点機関に派遣し、同時に3拠点機関から研究者を受け入れる。派遣・受け入れ研究者は、派遣先・受け入れ先で講演や授業を行い、国際共同研究に参画する。

②①と連動させる形で、毎年いずれかの拠点機関でテーマを定めた研究集会とセミナーを開催する。

③毎夏、いずれかの拠点機関で公開サマースクールを開講し、4拠点機関の大学院学生を中心に広く世界の若手研究者に世界史学習と研究交流の場を提供する。また、博士論文を準備中の大学院生に対して、4拠点機関の研究者からなる指導チームを編成し、より完成度の高い論文が執筆できるように共同で指導する。

5-2. 平成26年度研究交流目標

※本事業の目的である「研究協力体制の構築」「学術的観点」「若手研究者育成」に対する今年度の目標を設定してください。また社会への貢献や、その他課題独自の今年度の目的があれば設定してください。

<研究協力体制の構築>

研究開始にあたり、まず、日本側拠点到属する研究者間で情報と問題意識の共有を図り、他の3拠点到提案する具体的な共同研究テーマを決めるためのワークショップを国内で開催する。また、4拠点到間の緊密な研究協力体制を構築するために、可能な限り多くの協力研究者が海外の3拠点到を訪問し、互いの関心を知り有益な情報を共有するとともに、次年度以後の共同研究やサマースクールについての打ち合わせを行う。さらに、本拠点到独自のウェブサイトを構築し、4拠点到が共有するウェブサイトとリンクさせ、各拠点到の活動がスムーズかつ広汎に行き渡るように努める。

<学術的観点>

1) 3つの大テーマのうちのひとつである「世界史/グローバル・ヒストリーの方法」に関する共同研究を開始する。4つの拠点到が存在する各国における世界史とグローバル・ヒストリー理解を比較し、その共通点と相違点を明らかにするためのセミナーを開催する。また、従来の世界史解釈の前提や方法を検証し、その問題点を明らかにするとともに、どうすれば問題点を超えることができるかを検討する。

2) 研究者の相互訪問・交流を通じて、4つの拠点到で世界史/グローバル・ヒストリーの個別テーマに関する連続セミナーを開催する。

<若手研究者育成>

本共同研究に関心を持ち参加を希望する大学院学生を公募により広く日本全国から選抜する。選ばれた大学院学生を海外の拠点到機関に派遣する。彼らは各拠点到で研究報告を行なうとともに、自らの関心に近い授業に出席し、その拠点到に所属する大学院生と意見・情報を交換する。また、関連研究者から適宜博士論文作成のための指導を受ける。

6. 平成26年度研究交流成果

(交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めてください。)

6-1 研究協力体制の構築状況

国内の研究者による打ち合わせをかねたワークショップを6月に開催し、この事業の主旨と進め方を共有した。また、今後、他の3拠点と共同研究を進めて行く際の研究テーマについても意見交換を行った。これをうけて、他の3拠点にそれぞれ研究者を派遣し、具体的な交流の進め方について打ち合わせを行うとともに、日本側研究者による研究発表や相手側と共催でのセミナーを開催した。その回数と派遣人数は、プリンストン4回、4人、パリ2回、1人である。これらの会合を通じて、4拠点が共同して国際的なネットワークを発展させようというコンセンサスが生まれ、強固なものとなってきた。このネットワークを基盤として、平成27年度に東京で実施する第1回共同サマースクールの準備を進めた。さらに、本拠点独自のウェブサイト構築し、これをパリ拠点の全体ウェブサイトとリンクさせ、国内外へ有益な情報を発信することも開始した。

海外3拠点からは、研究者やPhD学生が数多く本拠点を訪れるようになり、訪問研究者による講演会3回と、主としてPhD学生を対象とするセミナーを1回企画し、実行した。また、学生は本事業コーディネーターの大学院の授業に出席した。

6-2 学術面の成果

4拠点からの研究者が集まって世界史/グローバル・ヒストリー研究の方法について議論するセミナーをベルリンで開催した。各研究者の個人的な関心についての報告を聞き、各国における歴史研究の歴史を比較・検討し、なぜいま global history 研究に取り組みねばならないのかについて意見交換を行った。この会議によって、今後このネットワークを基盤にしてどのような共同研究が可能なのかという点で、ある程度まで参加者の合意が得られた。日本からの参加者数が多かったため、日本の歴史研究の特徴について、他の拠点からの参加者に強い印象を与えることができた。

また、日本から他の3拠点へ、他の3拠点から日本へと研究者や学生が活発な移動を展開し、各種セミナーが多数開催された。それによって、学術面での相互理解が格段に進んだ。さらに、日本語のすぐれた研究業績を英語にして出版するために、事業コーディネーターが編者となり出版された『海から見た歴史』(2013年、東京大学出版会)の英訳作業を進めた。同書の出版まではなお時間がかかるが、とりあえず、今年度内に下訳を終えることができた。

6-3 若手研究者育成

組織の立ち上げと整備にまず取り組んだこと、学生の留学準備には相当の時間を要することなどのため、今年度は公募を行わず、かねてから留学の希望があった学生1名を5ヶ月間ベルリンに派遣した。この学生は、自らのウェブサイトを作成し、そこにベルリンでの学業生活を定期的にブログの形で報告している。また、一旦日本に戻った後の次年度に、今回滞在中に作り上げた自らのネットワークを使って、ベルリンでワークショ

ップを開催することを企画している。

次年度からは当初の計画通り公募を行うことにし、今年度のうちに平成 27 年度の派遣学生とサマースクール参加学生を募集し、前者 3 名と後者 7 名を選んだ。

他方、他の 3 拠点から、東京大学東洋文化研究所を訪れた PD と PhD 学生数は、プリンストン 2 名、パリ 2 名、ベルリン 3 名であり、彼らは本事業のコーディネーターである羽田の大学院授業に出席してグローバル・ヒストリーの手法について学ぶとともに、コーディネーターが設けた様々な機会を利用して東京大学の大学院学生や若手研究者と積極的に交流した。

6-4 その他（社会貢献や独自の目的等）

コーディネーターの羽田は、新しい世界史/グローバル・ヒストリーの重要性を学界や一般に普及するための活動に従事し、今年度だけで 4 回の講演（国内 2 回、国外 2 回）を行った。

6-5 今後の課題・問題点

1) 今年度の研究交流によって、各拠点の置かれた国における歴史研究の歴史や性格の違いについての理解は深まった。しかし、まだそれを論文の形で公表するには至っていない。来年度はこの点に留意し、目に見えるような研究成果を数多く出したい。

2) 事業の展開が進むにつれ、各種書類作成と海外との交渉、研究者や学生の受入に伴う業務の量が飛躍的に増大している。通常の事務職員には簡単にはこなせない専門的な英語を用いた通信や書類作成も多い。しかし、拠点形成事業では人材の雇用ができないため、対応に苦慮している。事業の展開を効果的にサポートできる有能なスタッフの配置を早急に進める必要がある。

6-6 本研究交流事業により発表された論文

平成 26 年度論文総数 2 本

相手国参加研究者との共著 0 本

(※ 「本事業名が明記されているもの」を計上・記入してください。)

(※ 詳細は別紙「論文リスト」に記入してください。)

7. 平成 26 年度研究交流実績状況

7-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 26 年度	研究終了年度	平成 30 年度
研究課題名	(和文) 世界史/グローバル・ヒストリーの方法				
	(英文) Methodology of World/Global History				
日本側代表者	(和文) 羽田 正 東京大学東洋文化研究所・教授				

氏名・所属・職	(英文) HANEDA Masashi, Professor, Institute for Advanced Studies on Asia	
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Jeremy ADELMAN, Professor, Princeton University Alessandro STANZIANI, Directeur d' Etudes, EHESS Andreas ECKERT, Professor, Berlin-Humbolt University	
参加者数	日本側参加者数	41名
	(アメリカ)側参加者数	10名
	(フランス)側参加者数	12名
	(ドイツ)側参加者数	12名
26年度の研究 交流活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国内での研究打ち合わせ4回と研究テーマ開発セミナー1回を開催 2. 日本側研究者を海外拠点に派遣し、研究発表と相手側と共催でのセミナーを開催。その回数と派遣人数は、プリンストン4回、4人、パリ2回、1人である。 3. 日本を訪問した海外拠点の研究者による研究セミナーを3回(パリ3人)開催 4. 海外拠点の若手研究者の受入(プリンストン2人、パリ2人、ベルリン3人)と彼らを加えた国際若手研究者による新しい世界史/グローバル・ヒストリー研究セミナーの開催 	
26年度の研究 交流活動から得 られた成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内における研究協力体制の確認と確立 2. 4つの拠点による国際的な教育研究ネットワークの創設。今後4年間の研究相互協力体制の確立 3. 新しい世界史/グローバル・ヒストリー研究の意義と方法論について、4つの拠点の研究者間でのある程度の共通認識の獲得。共通の研究テーマの策定 4. 4つの拠点の若手研究者による交流の活発化 5. ウェブサイトを利用した広報と情報伝達方法の開発 	

7-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「新しい世界史/グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Global History Collaborative“
開催期間	平成26年12月3日 ~ 平成26年12月7日 (5日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) ドイツ、ベルリン、ベルリン・フンボルト大学 (英文) Germany, Berlin, Berlin-Humboldt University
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 羽田正、東京大学東洋文化研究所・教授 (英文) HANEDA Masashi, Professor, Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	(英文) Andreas ECKERT, Professor, Berlin-Humboldt University

参加者数

派遣先 派遣		セミナー開催国 (ドイツ)
日本 〈人/人日〉	A.	8/ 50
	B.	1
アメリカ 〈人/人日〉	A.	4/ 18
	B.	1
ドイツ 〈人/人日〉	A.	2/ 10
	B.	10
フランス 〈人/人日〉	A.	2/ 10
	B.	0
合計 〈人/人日〉	A.	16/ 88
	B.	12

A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい

場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	4 拠点の主要な研究者が初めて一同に会し、相互の世界史認識と問題関心を確認する。また、日本側から5年間に亘る共同研究の核となる研究テーマの提案を行い、その内容と研究の進め方について、突っ込んだ議論を行う。これらの作業により、4 拠点が中心になって展開する世界史/グローバル・ヒストリー研究の方法を定め、討議のための共通の基盤を築くことを目的とする。		
セミナーの成果	<p>1. 4つの国における世界史/グローバル・ヒストリー認識と歴史研究者の立ち位置の相違点と共通点が明らかになり、4つの拠点が目指すべき研究の前提と方向性についてある程度の合意が生まれた。これが以後の共同研究を展開する上での基盤となることが期待される。</p> <p>2. 4つの研究拠点の研究の特色と構成員について、相互理解が一気に進んだ。</p>		
セミナーの運営組織	<p>プログラムの内容は4拠点のコーディネーターが話し合っただけだが、セミナーの実施については、ドイツ側がホストとして、会場を提供し、運営のすべてに責任を持った。</p> <p>日本側は、幹事会が派遣研究者を決定し、セミナーのための特別な運営組織は作らなかった。</p>		
開催経費 分担内容 と金額	日本側	内容	金額
		外国旅費	2,654,472 円
		謝金 (校正料)	56,616 円
		消費税	209,912 円
		合計	2,921,000 円
	アメリカ側	内容	
		外国旅費、謝金	
	フランス側	内容	
		外国旅費、謝金	
	ドイツ側	内容	
		外国旅費、国内旅費、謝金、会議費	

7-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

所属・職名 派遣者名	派遣・受入 先 (国・都市・機 関)	派遣期間	用務・目的等
東京大学・総合 文化研究科・博 士課程 寺田悠紀	ドイツ・ベ ルリン自由 大学	2014. 10. 4-2014. 12. 13 2015. 2. 2-2015. 3. 31	授業聴講、資料収集および研究発 表
京都大学人文 科学研究所・准 教授 村上衛	アメリカ・ プリンスト ン・プリン ストン大学	2014. 10. 16-2014. 10. 25	研究発表および調査
東京大学人文 社会系研究 科・准教授 島田竜登	アメリカ・ プリンスト ン・プリン ストン大学	2014. 10. 21-2014. 10. 26	研究発表および調査
東京大学・東洋 文化研究所・教 授 羽田正	フランス・ パリ・社会 科学高等研 究院	2014. 11. 28-2014. 12. 1	研究打合せ
広島大学文学 研究科・准教授 太田淳	フランス・ パリ・社会 科学高等研 究院	2015. 2. 1-2015. 2. 11	研究発表および調査
東京大学・東洋 文化研究所・特 任研究員 鶴飼敦子	アメリカ・ プリンスト ン・プリン ストン大学	2015. 2. 7-2015. 3. 8	研究発表および調査
法政大学・経済 学部・教授 杉浦未樹	アメリカ・ プリンスト ン・プリン ストン大学	2015. 2. 13-2015. 3. 23	研究発表および調査
東京大学・東洋 文化研究所・教 授 羽田正	アメリカ・ プリンスト ン・プリン ストン大学	2015. 3. 20-2015. 3. 25	研究打合せ

8. 平成26年度研究交流実績総人数・人日数

8-1 相手国との交流実績

派遣先 派遣元	四半期	日本	アメリカ	フランス	ドイツ	合計
日本	1		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)
	2		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)
	3		2/16 (1/4)	1/4 (0/0)	6/102 (2/14)	9/122 (3/18)
	4		3/75 (0/0)	1/11 (0/0)	1/58 (0/0)	5/144 (0/0)
	計		5/91 (1/4)	2/15 (0/0)	7/160 (2/14)	14/266 (3/18)
アメリカ	1	0/0 (3/477)		0/0 (0/0)	0/0 (1/90)	0/0 (4/567)
	2	0/0 (0/0)		0/0 (1/10)	0/0 (0/0)	0/0 (1/10)
	3	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (4/15)	0/0 (4/15)
	4	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)
	計	0/0 (3/477)		0/0 (1/10)	0/0 (5/105)	0/0 (9/592)
フランス	1	0/0 (1/1)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (1/1)
	2	0/0 (2/178)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (2/178)
	3	0/0 (1/31)	0/0 (0/0)		0/0 (2/8)	0/0 (3/39)
	4	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)	0/0 (0/0)
	計	0/0 (4/210)	0/0 (0/0)		0/0 (2/8)	0/0 (6/218)
ドイツ	1	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)
	2	0/0 (3/417)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (3/417)
	3	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)
	4	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (0/0)
	計	0/0 (3/417)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)		0/0 (3/417)
合計	1	0/0 (4/478)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (1/90)	0/0 (5/568)
	2	0/0 (5/595)	0/0 (0/0)	0/0 (1/10)	0/0 (0/0)	0/0 (6/605)
	3	0/0 (1/31)	2/16 (1/4)	1/4 (0/0)	6/102 (8/37)	9/122 (10/72)
	4	0/0 (0/0)	3/75 (0/0)	1/11 (0/0)	1/58 (0/0)	5/144 (0/0)
	計	0/0 (10/1104)	5/91 (1/4)	2/15 (1/10)	7/160 (9/127)	14/266 (21/1245)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

8-2 国内での交流実績

1	2	3	4	合計
5/10 (1/1)	0 (0/0)	1/1 (0/0)	21/53 (0/0)	27/64 (1/1)

9. 平成26年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	2,216,893	
	外国旅費	7,545,924	
	謝金	298,217	
	備品・消耗品 購入費	642,147	
	その他の経費	4,703,004	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	593,815	その他経費(郵便 料)にかかる消費税 含む
	計	16,000,000	
業務委託手数料		1,600,000	消費税額は 内額とする。
合 計		17,600,000	

10. 平成26年度相手国マッチングファンド使用額

相手国名	平成26年度使用額	
	現地通貨額[現地通貨単位]	日本円換算額
アメリカ合衆国	80,000[ドル]	9,520,000 円相当
フランス共和国	50,000[ユーロ]	6,750,000 円相当
ドイツ連邦共和国	50,000[ユーロ]	6,750,000 円相当

※交流実施期間中に、相手国が本事業のために使用したマッチングファンドの金額について、現地通貨での金額、及び日本円換算額を記入してください。